

なし「南水」の黒斑病の発生が多い

～直ちに薬剤散布を行ってください～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

潟上市予察ほの「南水」における果そう葉での黒斑病の初発日は5月3日（平成18年5月21日）で早く、平成18年から開始した予察ほ調査で最も早かった。

5月中旬の巡回調査（3地点）における「南水」での果そう葉の黒斑病の発病葉率は1.1%（平成0.1%）、発病地点率は100%（平成26.7%）でいずれも高く（表-1）、平成19年から開始した巡回調査で最も高かった（図-1）。

5月16日に仙台管区気象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平成並と予報されている。

本病は落花期以降の高温、多雨で多発する。そのため、既に発病が見られる園地では、今後の降雨により葉や果実への感染及び発病（図-2、3）をくり返すおそれがあるため、以下の防除対策により、特に果実への感染を予防する。

2. 防除対策

1) 薬剤防除

- ・本病は「南水」で果実被害が発生しやすく、「二十世紀」や「新水」、「八雲」などにも発生する。これらの品種を対象に、直ちにユニックス顆粒水和剤47 2,000倍又はポリオキシンAL水和剤 1,000倍を主剤（オキシラン水和剤、チオノックフロアブル、トレノックフロアブルなど）に加用して散布する。
- ・耐性菌の出現を回避するため、ポリオキシンAL水和剤は年間3回以内の使用とする。

2) 耕種的防除

- ・枝病斑（図-4）、枯死芽は伝染源になるので切除する。
- ・有袋栽培の場合は、果実被害を防止するために薬剤散布後は早めに袋をかける。

3. 資料

表-1 巡回調査(5月中旬)における果そう葉の発病状況

	発病葉率(%)	発病地点率(%)
2024	1.1	100
平成	0.1	26.7
概評	多	多

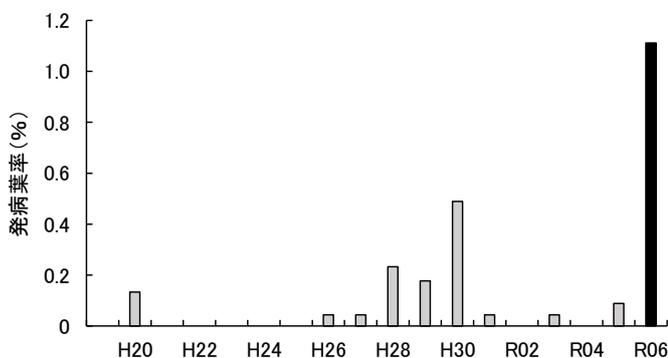


図-1 巡回調査(5月中旬)における果そう葉率の年次推移



図-2 葉での発病



図-3 果実での発病



図-4 枝病斑

【問合せ先】

秋田県病害虫防除所	TEL	018-881-3660
秋田県果樹試験場	TEL	0182-25-4224
天王分場チーム	TEL	018-878-2251
掲載HP https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/		